

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

<ul style="list-style-type: none"> 重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 						アンケート実施結果、 その他指標の結果につ いて整理
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・ 各種指標	アンケート結果・ 各種指標結果	
1	確 かな 学力	自ら進んで学習に 取り組む子の育成	共働いて力いっぱい活動し、達成感・成就感を味わう体育学習 各学年授業研究	・全国学力学習状況調査 ・ジョイントプログラムの結果 ・児童の共働活動における変容	1月のジョイントプログラムでは、全学年、全市平均を下回った。5ポイント以上下回った教科もあった。	⇒
		家庭学習の習慣化	学習予定表の活用 自主学習の推進 「学びの手引」の活用	お子様は、家庭学習を自分からしていますか。	「そう思う」保護者の回答率は37%	⇒
		読書の習慣化	100冊読書の定着 朝読書の確実な実施	読書は、好きですか。	「よくできている」児童の回答率は28%	⇒
2	豊 かな 心	道徳教育の充実	各学級、年3回道徳・年2回学級会の授業公開	児童の話す・聞く態度の変容	全学級の公開授業を実施 友だちの意見を聞きて、自分の思いを発表できるようになってきた。	⇒
		学校のきまりの徹底	あいさつ、廊下歩行、掃除、給食、時間遵守等全教職員で指導	児童の学校生活での状況把握	徹底には至っていないが前期以上の成果が見られた。	⇒
		人権教育の推進 (心を育てる学校行事)	「ほっとデー」の取組、育成学級との交流、いじめ防止等の対策	・取組、対策の実施状況 ・行事は、お子様の力を育てるために効果的であると思われますか。	「そう思う」保護者の回答率は66%	⇒
3	健 や かな 体	基本的生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはんの奨励、おはようおやすみチェックの活用	お子様は、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身についていますか。	「そう思う」保護者の回答率は29%、児童の回答率は30%	⇒
		体力の向上 安全・健康のすすめ	体力づくりの推進(マラソン、なわとび)各種記録会への積極的参加	・記録会等の参加状況及び体力テストの結果 ・お子様は、体力が向上したと思われますか。	「そう思う」保護者の回答率は38%	⇒
4	独 自 の 取 組	小中一貫教育の推進	全員研修会の実施 部会研究 漢字検定、天体観望会	・部会研究の達成状況 ・漢字検定、天体観望会の参加状況	冬季研修会の実施 小中で授業研究会の交流を実施	⇒
		情報発信の充実	積極的なホームページの更新	学校ホームページへのアクセス数	本年度アクセス数約24000回	⇒
		保護者・地域との連携強化	広報活動の充実 地域・PTA活動への参加	学校の取組を学校便り等でお知らせしていますが、分かりやすい説明になっていますか。	「そう思う」保護者の回答率は28%	⇒

学校名(京都市立京北第一小学校)

学校関係者評価	
評価日	平成28年3月17日
評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・放課後まなび教室には、低学年中心に多数児童が参加した。様々な活動を取り入れ、楽しみにしている児童も増えた。	・4月当初は、新1年生対象の開始時間を早めての実施はよかった。来年度も続けていきたい。
・今年度も全員100冊読破できたのは良かった。	・引き続き、図書室の整備を図ってきたい。
学校運営協議会の心すこやか部会によるあいさつ運動時には、児童も元気に挨拶を返していた。標語を記載したティッシュ配布も効果があった。	・今年度も学校運営協議会の心すこやか、地域文化歴史、体験の3部会とも計画通りの活動ができた。小学校、中学校、保護者、地域が一体となった連携をこれからもすすめていきたい。
・高学年になると生活習慣が乱れる児童もいる。「早寝・早起き・朝ごはん」をもっと呼びかける必要がある。	・地域の取組やイベントへの参加を呼びかけていきたい。生活習慣についても学校と家庭、地域のさらなる連携が必要である。
・保護者が参加する行事等はできるだけ早めに知らせてほしい。	・地域や保護者に対して、学校だより・ホームページ等で学校の様子が発信されたのはよかった。特に、学校だよりは、学校と地域とのつながりに大きな役割を果たしている。PTAのホームページもPTA活動がよくわかりよかった。
・ホームページは頻繁に更新されており、学校の様子がよくわかった。これからも続けてほしい。	

4 総括・次年度の課題

学習面では、基礎基本の定着が課題である。何事にも受け身の児童が多く、自分の思いや意見を表現することに臆する。学習態度においてもけじめがつきにくく、学習課題をやり切ろうという意欲に欠ける。次年度は、児童が主体的に学習し、その中で考え方や結果等について自分なりに説明したり、話し合ったりする力を育てたいと考える。そのために、姿勢等の学習規律から、徹底して見直していきたい。姿勢を正すことから、丁寧なノート作りの指導を行い、そこから学習全般に粘り強く取り組むことができる姿へとつなげていきたい。教職員においても校内研究をより充実したものにしていく。めざす子ども像に近づけるため、常に教育目標、研究テーマを意識しながら、達成に向けて取り組む体制を研究部を中心に組んでいきたい。そして、保護者・地域の方にも取組を理解していただき、家庭での過ごし方、生活習慣等について協力や支援が得られるような学校運営にあたっていきたい。